

第2節 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向

1 高齢者の家族と世帯

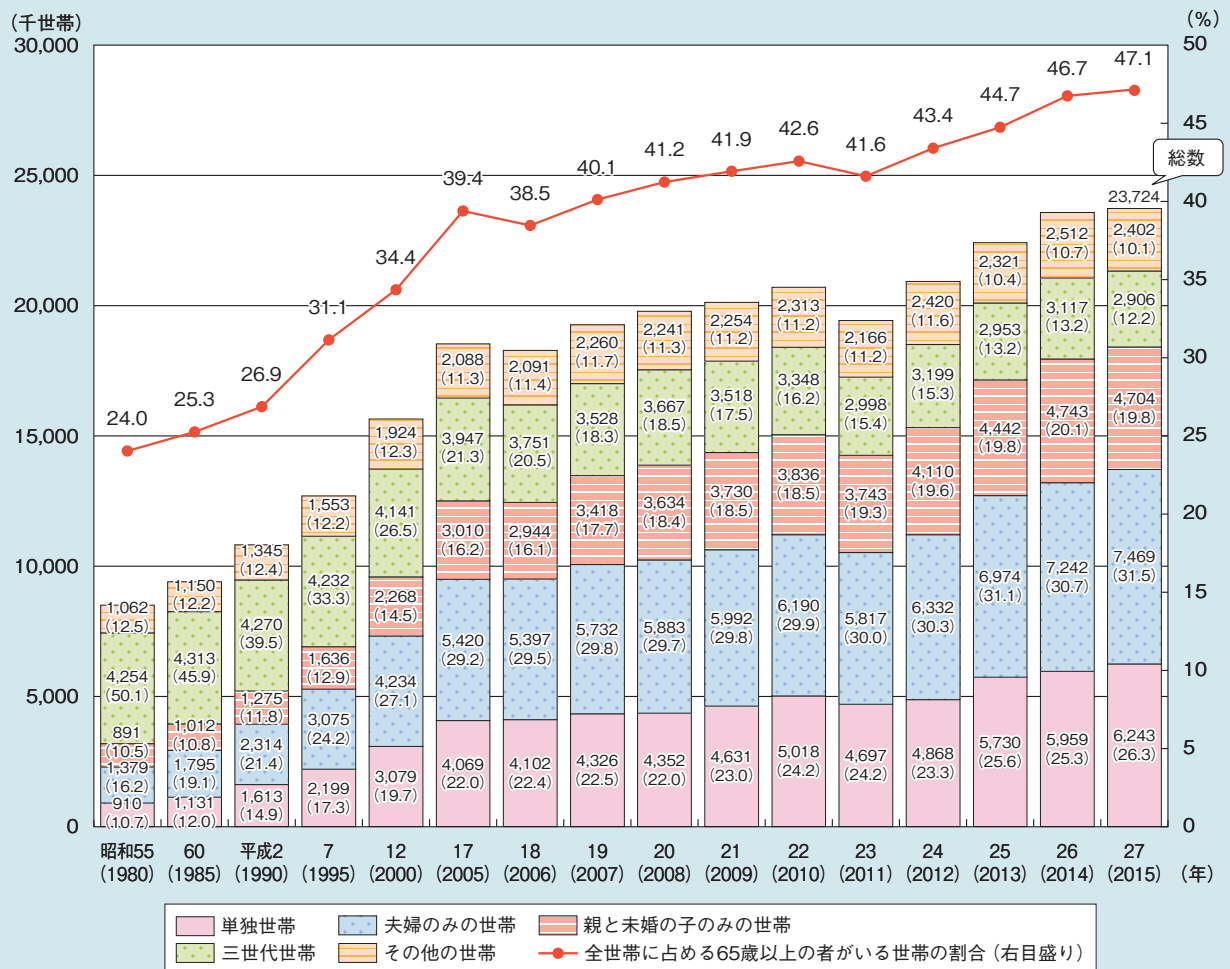
(1) 高齢者のいる世帯は全世帯の約半分、「単独世帯」・「夫婦のみ世帯」が全体の過半数

65歳以上の高齢者のいる世帯についてみると、平成27（2015）年現在、世帯数は2372万4千世帯と、全世帯（5036万1千世帯）の47.1%

を占めている（図1-2-1-1）。

昭和55（1980）年では世帯構造の中で三世代世帯の割合が一番多く、全体の半数を占めていたが、平成27（2015）年では夫婦のみの世帯が一番多く約3割を占めており、単独世帯と合わせると半数を超える状況である。

図1-2-1-1 65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合（世帯構造別）と全世帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合



資料：昭和60年以前の数値は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降の数値は厚生労働省「国民生活基礎調査」による
 (注1) 平成7年の数値は兵庫県を除いたもの、平成23年の数値は岩手県、宮城県及び福島県を除いたもの、平成24年の数値は福島県を除いたものである。
 (注2) () 内の数字は、65歳以上の者のいる世帯総数に占める割合 (%)
 (注3) 四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

(2) 子供との同居は減少している

65歳以上の高齢者について子供との同居率をみると、昭和55（1980）年にほぼ7割であったものが、平成27（2015）年には39.0%となっており、子と同居の割合は大幅に減少している。単独世帯又は夫婦のみの者については、昭和55（1980）年には合わせて3割弱であったものが、平成27（2015）年には56.9%まで増加している（図1-2-1-2）。

(3) 一人暮らし高齢者が増加傾向

65歳以上の一人暮らし高齢者の増加は男女ともに顕著であり、昭和55（1980）年には男性約19万人、女性約69万人、高齢者人口に占める割合は男性4.3%、女性11.2%であったが、平成27（2015）年には男性約192万人、女性約400万人、高齢者人口に占める割合は男性13.3%、女性21.1%となっている（図1-2-1-3）。

(4) 女性の有配偶率は5割を超え上昇傾向

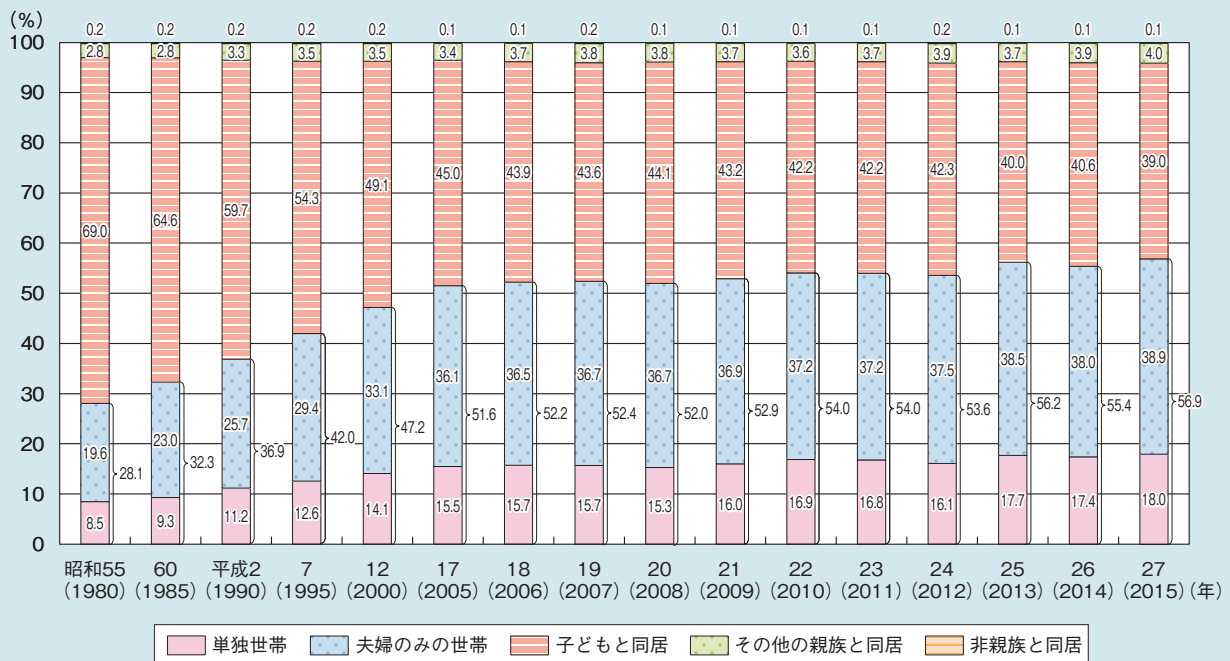
65歳以上の高齢者の配偶関係についてみると、平成27（2015）年における有配偶率は、男性80.1%に対し、女性は51.4%である。女性の高齢者の約2人に1人が配偶者ありとなっており、その割合は上昇傾向にある。また、未婚率は男性5.3%、女性4.3%、離別率は男性4.4%、女性5.6%となっており、いずれも上昇傾向となっている（図1-2-1-4）。

2 高齢者の経済状況

(1) 経済的な暮らし向きに心配ないと感じる高齢者は64.6%

60歳以上の高齢者の経済的な暮らし向きについてみると、「心配ない」（「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」と「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく

図1-2-1-2 家族形態別にみた65歳以上の高齢者の割合



資料：昭和60年以前は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降は厚生労働省（厚生省）「国民生活基礎調査」

(注) 平成7年の数値は兵庫県を除いたもの、平成23年の数値は岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。